

作成日 2026年2月17日

## (臨床研究に関するお知らせ)

### 内視鏡下腰椎椎体間固定術を受けた手術歴のある患者さんへ

和歌山県立医科大学整形外科学講座では、以下の臨床研究を実施しています。ここにご説明するのは、診療情報や検査データ等を解析する「観察研究」という臨床研究で、本学倫理審査委員会の承認を受け、学長の研究実施許可を得て行うものです。通常の診療で得られた情報等を利用させて頂く研究ですので、対象となる患者さんに新たな検査や費用のご負担をお願いするものではありません。また、対象となる方が特定できないよう、個人情報の保護には十分な注意を払います。

この研究の対象に該当すると思われる方で、ご自身の診療情報等が利用されることを望まない場合やご質問がある場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

#### 1. 研究課題名

胸椎椎間板ヘルニアに対する内視鏡下手術に関する後ろ向き研究

#### 2. 研究責任者

和歌山県立医科大学整形外科学講座 准教授 高見正成

#### 3. 研究の目的

胸椎椎間板ヘルニアに対する手術には、従来様々な方法が用いられてきました。最近では、低侵襲な内視鏡下手術が行われるようになってきました。従来発表されている低侵襲手術は、前方法と後方法に大別され、それぞれ長所と短所があります。特に中心性胸椎椎間板ヘルニアに対する低侵襲手術は困難な手術と考えられますが、当科では手術アプローチに工夫を行って手術を行っています。具体的には後方法でありながら脊髄の前方に到達するために、なるべく外側からのアプローチが必要と考え、経肋骨的アプローチを行っています。この手技を用いた胸椎椎間板ヘルニアの治療成績を評価させていただくことが本研究の目的となります。

#### 4. 研究の概要

##### (1) 対象となる患者さん

当科にて2018年1月から2023年12月までの期間中に当院で胸椎椎間板ヘルニアの手術を受けられた方。

##### (2) 研究期間

研究実施許可日～5年間

##### (3) 試料・情報の利用又は提供を開始する予定日

研究実施許可日

##### (4) 利用させて頂く試料・情報

この研究で利用させて頂くデータは、性別、年齢、Body Mass Index、椎間高位、手術時間、出血量、入院日数、レントゲン像、MRI、CT像等に関する身体および放射線学的情報です。使用するデータは、2018年1月から2025年12月までのデータです。

##### (5) 方法

上記の期間において、胸椎椎間板ヘルニアに関する手術を受けられた方のうち、中心性ヘルニアで脊髄症をおこしている方の内視鏡下手術を受けられた方の治療成績を評価します。

#### 5. 外部への試料・情報の提供

ありません。

## 6. 個人情報の取扱い

本研究については大学病院医療情報ネットワーク研究センター 臨床試験登録システム (UMIN-CTR) に登録いたしますが、利用する情報からは、患者さんを特定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されることがありますが、その際も患者さんの個人情報が公表されることはありません。

## 7. ご自身の情報が利用されることを望まない場合

臨床研究は医学の進歩に欠かせない学術活動ですが、患者さんには、ご自身の診療情報等が利用されることを望まない場合、これを拒否する権利があります。その場合は、下記までご連絡ください。研究対象から除外させていただきます。但し、既にデータが解析され個人を特定できない場合など、研究の進捗状況によっては削除できないことがありますので、ご了承ください。なお、研究協力を拒否された場合でも、診療上の不利益を被ることは一切ありません。

## 8. 資金源及び利益相反等について

本研究に関連して開示すべき利益相反関係になる企業等はありません。

## 9. 問い合わせ先

和歌山県立医科大学整形外科学講座

担当者：高見 正成

住所：和歌山市紀三井寺 811-1

TEL：073-441-0645 FAX：073-448-3008

E-mail：[takami@wakayama-med.ac.jp](mailto:takami@wakayama-med.ac.jp)